

二〇二一年度 桜蔭中学校入学試験問題 [国語]

一、次のⅠとⅡの文章を読んで、後の問いに答えなさい。

Ⅰ ゾウはどんな生き物でしょうか。

「ゾウは鼻が長い動物である」そう答える人が多いかもしれませんが。しかし、本当にそうですか。

「群盲象を評す」というインド発祥の寓話があります。

昔むかし、目の見えない人たちが、ゾウという生き物について感想を言い合いました。

鼻に触れた人は「ゾウはヘビのように細長い生き物だ」と言いました。ある人は、牙に触れて「ゾウは槍のような生き物だ」と叫びました。そして、耳に触った人は、「ゾウはうちわのような生き物だ」と言いました。そして、太い足を触った人は「ゾウは木のような生き物だ」と言ったのです。

みんな正しいことを言っています。しかし、誰一人としてゾウの本当の姿がわからなかったのです。

私たちも目の見えない物語の人たちと、そんなに違いはありません。

「ゾウは鼻の長い動物である」

本当に、それがゾウのすべてですか。

それでは、キリンはどうでしょう。キリンは首が長い動物……ただ、それだけです。

それでは、シマウマはどうでしょう。バクはどうでしょう。

ゾウは、一〇〇メートルを一〇秒くらいで走ります。人間のオリンピック選手くらいの速さです。

ゾウは足の速い動物でもあるのです。

ゾウは鼻が長いというのは、ゾウの一面でしかありません。

Xオオカミは恐ろしい動物と言われています。本当にそうでしょうか。確かにオオカミはヒツジなどのaカチクを襲います。しかし、オオカミは家族で生活をし、お父さんは家族のために獲ってきた獲物を、まず子どもたちに与えます。オオカミは家族思いのとってもやさしい動物でもあるのです。

(中略)

人間も同じです。

あなたのことを「おとなしい人だ」と思う人がいるかもしれませんが、一方、あなたのことを「活発な人だ」と思う人もいるかもしれません。おそらく、そのどちらも本当です。

本当のところ私たちは、そんなに単純な存在ではありません。

しかし、人間はどうも一面を見て判断してしまいがちです。しかも、人間のbノウは複雑なことは嫌いですから、できるだけ簡単に説明したくなります。

ゾウは鼻が長い動物で、キリンは首が長い動物、というような括り方で、あなたのことも「〇〇な人」と単純に納得したくなるのです。

それは、仕方のないことだというのも事実です。人間のノウは、あなたの複雑さなど理解したくないのです。

気をつけなければいけないのは、周りの人が一方向からみたレッテルを、あなた自身も信じてしまうことです。

たとえば「おとなしい子」と他の人が思ったのは間違いではないかもしれませんが。しかし、それは一面でしかありません。

それなのに、みんなが思ったとおり、「おとなしい子」があなたらしさだと勘違いしてしまうのです。そして「おとなしい子」でなければ自分らしくないと、「おとなしい子」になっていってしまうのです。

こうして、人は「自分らしさ」を見失っていきます。

「本当の自分」とは違う自分に苦しくなってしまうときもあります。そして時には人は、「本当の自分」らしさを自ら捨ててしまうのです。

「らしさ」って何でしょうか。

それは、まわりの人たちが作り上げた幻想ではないでしょうか。

他にも自分らしさを見失わせる「らしさ」があります。

上級生らしく、中高生らしく、男らしく、女らしく、お兄ちゃんらしく、優等生らしく……。

私たちのまわりにはたくさんの「らしさ」があります。

そして、その「らしさ」は、上級生らしくすべき、中高生らしくすべき、男らしくあるべき、女らしくあるべき、お兄ちゃんらしく振る舞うべき、優等生らしく頑張るべき……という「べき」という言葉を必ず連れてきます。

確かに、社会が期待するような「らしさ」に従うことも必要です。

しかし、①「本当の自分」らしさを探すときには、皆さんのまわりにまわりついている「らしさ」を捨ててみる必要があるのです。

「らしさ」という呪縛を解いたときに、初めて自分の「らしさ」が見つかるのです。

(中略)

②私は雑草と呼ばれる植物に心惹かれます。

皆さんの中にも、「雑草魂」という言葉が好きだったり、「雑草集団」と呼ばれるチームは応援したくなる人がいるかもしれません。エリートではないのに、頑張っている。雑草にはそんなイメージがあるかもしれません。

しかし、私が雑草を好きな理由は少し違います。

雑草は図鑑どおりではありません。それが何よりの魅力です。

図鑑には春に咲くと書いてあるのに、秋に咲いていたり、三〇センチくらいの草丈と書いてあるのに、一メートル以上もあつたり、そうかと思うと五センチくらいで花を咲かせていたりします。まったく図鑑どおりではないのです。

人間にとって、図鑑は正しいことが書いてあるものです。「こういうものだ」「こういうのが平均的だ」と書いてあります。つまり、「こうあるべきだ」と書いてあるのです。

しかし、図鑑は人間が勝手に作ったものです。図鑑に書かれていることは、人間の勝手な思い込みなのかもしれません。植物にしてみれば、図鑑どおりでなければいけない理由はまったくありません。

雑草は、図鑑に書かれていることを気にせず、自由に生えています。そして自由に花を咲かせます。

図鑑に書かれていることと違うということは、植物を研究している私にとっては、とても面倒くさいことで、とても困ることです。しかし、人間が勝手に作り出したルールや「こうあるべき」という幻想にとらわれない雑草の生き方が、とてもツウカイで、少しくらやましくもあるのです。

Ⅱ ③古代中国の思想家・孫子という人は「戦わず勝つ」と言いました。

孫子だけでなく、歴史上の偉人たちは「できるだけ戦わない」という戦略にたどりついているのです。

偉人たちは、どうやってこのdキョウチにたどりついたのでしょうか。おそらく彼らはいっぱい戦ったのです。そして、いっぱい負けたのです。

勝者と敗者がいたとき、敗者はつらい思いをします。どうして負けてしまったのだろうと考えます。どうやったら勝てるのだろうと考えます。彼らは傷つき、苦しんだのです。

そして、ナンバー1になれるオンリー1のポジションを見つけたのです。

そんなふうに「戦わない戦略」にたどりついたのです。

生物も、「戦わない戦略」を基本戦略としています。

自然界では、激しい生存競争が繰り広げられます。生物の進化の中で、生物たちは戦い続けました。そして、各々の生物たちは、進化の歴史の中でナンバー1になれるオンリー1のポジションを見出しました。そして、「できるだけ戦わない」というキョウチと地位にたどりついたのです。

(中略)

苦手なところで勝負する必要はありません。嫌なら逃げてもいいのです。

しかし、無限の可能性のある若い皆さんは、勝手に苦手だと判断しないほうが良いかもしれません。

ペンギンは地面の上を歩くのは苦手です。しかし、水の中に入れば、まるで魚のように自由自在に泳ぎ回ります。アザラシやカバも、地上ではのろまなイメージがありますが、水の中では生き生きと泳ぎ始めます。まだ進化することなく、地上生活していた彼らの祖先たちは、まさか自分たちが水の中が得意だとは思いいにもよらなかったでしょうし、さらに自分たちの祖先が水中生活を得意としていたとは思わなかったことでしょう。

リスは、木をすばやく駆け上がりまします。しかし、リスの仲間のYモモンガは、リスに比べると木登りが上手とは言えません。ゆっくりゆっくり上がっていきます。しかし、モモンガは、木の上から見事に滑空することができます。木に登ることをあきらめてしまつては、空を飛べることに気がつかなかったかもしれません。

人間も同じです。

サッカーには、ボールを地面に落とさないように足でコントロールするリフティングという基礎練習があります。しかし、プロのサッカー選手でもリフティングが苦手だったという人もいます。リフティングだけで苦手と判断しサッカーをやめていたら、強力なシュートを打つ能力はeカイカしなかったかもしれません。

小学校では、算数は計算問題が主です。しかし、中学や高校で習う数学は、難しいパズルを解くような面白さもあります。大学に行つて数学を勉強すると、抽象的だったり、この世に存在しえないような世界を、数字で表現し始めます。もはや哲学のようです。計算問題が面倒くさいというだけで、「苦手」と決めつけてしまうと、数学の本当の面白さに出会うことはないかもしれません。

勉強は得意なことを探すことでもあります。苦手なことを無理してやる必要はありません。最後は、得意なところで勝負すればいいのです。しかし、得意なことを探すためには、すぐに苦手と決めて捨ててしまわないということが大切なのです。

(稲垣栄洋『はずれ者が進化をつくる 生き物をめぐる個性の秘密』)

問一 ―― 線部aとeのカタカナを漢字に直しなさい。

問二 ―― 線部①のように言う筆者が―― 線部②のように言うのはなぜでしょうか、説明しなさい。

問三 ―― 線部③について、私たちが「戦わずに勝つ」ためにはどうすればよいでしょうか、本文の内容にそつて説明しなさい。

問四 XオオカミとYモモンガはどのようなことを説明するための例としてあげられていますか、それぞれ説明しなさい。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

あのな、タロ。うち、おなじクラスに、にがてな女子がおるねん。
中沢真紀。

五年二組でいちばん髪が長くて、足もすーっと長くて、おはだもつるつるしとつて、やたらおしやれで、なんや氣どつとる。男子には「クルビューティー」言われとるけど、うちは真紀ちゃんの目がこわい。

あれは、ケモノの目や。タロよりずっと狂暴や。

真紀ちゃんはいつもジミめの田中さんを手下みたいにしたがえて、ハデめの男子らとキヤアキヤアはしゃいどるのに、ときどき、なんや(注)味変みたいな感じで、うちのグループにくつついてくる。うちら、お人よしさかい、くつついてきたらムシできひん。そやから、うちのグループは基本四人やねんけど、真紀ちゃんと田中さんがおるときは六人に

なる。

六人になるたび、うち、なんや無口になつてまう。
なんでやろ。

うち、だれとでもペラペラしゃべれるはずなのに、真紀ちゃんただけはよう話さん。口が動いてくれへんし、舌がまわってくれへん。根性ふりしぼつて口開いても、あつというまに話がつきてまう。

たとえば、うちが「今日はえらい暑いなあ」とか、言うやろ。そしたら、真紀ちゃん、つんとした声で「ま、夏やしな」なんて言うねん。夏やしな、言われたら、もうなんも返せへん。冬かて「寒い」って言われへん。

真紀ちゃんの言葉がうちには通じひん、ちゆう問題もある。

まえに、うちが「肩からつるすズボンみたいなやつ、はいてみたい」言うたら、真紀ちゃん、「それ、ひよつとしてサロペットのこちやう？」なんて、ケモノの目をギラギラさせて、つっこむねん。「肩からつるすズボンとか、ウケるー」なんて、ケラケラ高笑いや。

真紀ちゃんはセレブっぽいカタカナ言葉が好物で、なんでもカタカナにおきかえる。うちには意味がわからへん。日本語で言えることを日本語で言うてなにが悪いねん。

いつもはツンとしとるのに、射程圏内に男子が入ったとたん、あまつたるい声ではしやぎだすのも見苦しい。態度がちがいすぎるねん。

そないな女子は、これまでもクラスに一人か二人はおったけど、うちはかわりあいにならへんように遠くからながめとつた。

真紀ちゃんはそのもいかへん。花たばみしたいなおいのコロンをぶんぶんさせて、自分から近づいてくる。

真紀ちゃんがそばにおると、時間がたつのがおそい。休み時間の十分が、使いきれへんくらいに長つたらしく思える。給食もよう味わわん。真紀ちゃんのすまし顔をまつすぐ見られへんで、うちの目、いつも泳いどる。

ほんまに、ほんまに、にがてやねん。

ほんで、もつとあかんことに――たぶん、真紀ちゃんもうちがにがてや。うちの顔、まつすぐ見いひんし。めつたに話しかけてきいひんし。うちのギャグにもしらつとしとるし。真紀ちゃんがうちを見て笑うときは鼻で笑うときやし。

みんなでろうかを歩いとるあいだに、うつかり、うちが真紀ちゃんの横になつたりするやろ。そしたら、真紀ちゃんの足が急にはよなるねん。徒競走か、ちゆうくらいのいきおいでみるみるはなれてく。

あの人、ぜつたい、うちがにがてやわ。

いや――にがてどころか、うち、真紀ちゃんにごつつきらわれとるんちやうやろか。

古い橋みたいにぐらぐらしとつたうちと真紀ちゃんの関係に、バリツと強烈なヒビが入つたのは、何日かまえの昼休みや。

昼どきはよく真紀ちゃんと田中さんがうちらにくつついてくるから、四人グループが六人になる。その日も、つくえ六つ合わせて、味のぼんやりした給食を食べとるあいだ、うち、半分ギャグでこぼしてん。

「うちの学校の給食、ほんま、塩分ひかえめすぎるわ。調味料のケチりかたえげつない」

ただの軽口やで。人間社会では、こないなギャグをスパイスにして、味のぼんやりした給食を食べるんや。生きる知恵や。

なのに、言うたとたんに、真紀ちゃんのずぶとい声が飛んできた。

「ほな塩でもしょうゆでも家からもつてきて、どつさどつさかけて、高血圧になつたらええわ」

Aがつんと顔に岩塩ぶつけられた氣がしたわ。ほんま。

ほかのみんなもぶつたまげた顔して、一瞬、その場がしんとなった。

二、三秒やな。それから、みんなはなんもなかったふりして、またぼちぼちしゃべりだしたけど、Bうちはなかなか復活できひんかった。

頭のなかで真紀ちゃんの声がぐるぐるしとつてん。

男子のまえではぜつたいい出さへん野性のうねりが、な。

その夜、うちは爆発した。

「あー、もう限界や。なんでうち、真紀ちゃんに合わないこと言われなあかんのやろ。給食の味がうすいのは、全校生徒に共通のなやみや。うちはみんなの心のさけびを代弁したただけや。なんで真紀ちゃんがカッかせなあかんのん？ ほんま、あの子はうちのやることなすこと気にいらんのやろな。そやけど、それはおたがいさまや。うちかて、ぜんぜん負けへんくらい、真紀ちゃんがやでやでしやあないわ」

うっぷんをぶちまけたあいては、塾仲間のミーヤン。毎週、火曜日と木曜日に塾で会って、電車でとちゅうまでいっしょに帰る。

塾の仲間は、学校の人間関係を知らへんさかい、気楽になんでもしゃべれるねん。

「けど、ほんまにわからんわ。ケンカしたわけでもあらへんのに、なんでうちと真紀ちゃん、こないなことになっとるんやろ」

塾でも、帰り道でも、うちはひたすらグチりつづけた。

そしたら、うちのおりる駅が近づいたところ、それまでふんふんきいてるだけやつたミーヤンが、きゆうに口を開いてん。

「あんな、水穂」

ハスキーボイスのミーヤンは、じーっとうちの目を見て、ハスキーに言うてん。

「あんたと真紀ちゃんは、生まれながらに相性が悪い。それだけや」

「へ？」

「馬が合わへん、ちゅうやつちゃ」

ちなみに、ミーヤンは今どきめずらしい六人きょうだいの長女で、だから知らんけど、こつつ①性根がすわっとる。うちはひとりっ子やし、親もようは家におらんさかい、ミーヤンを姉ちゃんみたいに思っとることもある。

そのたのもしいミーヤンが、あんまりあつかんと言うてくれたもんやから、うち、ぼかんとなつてしもて、十秒くらいなんも言えへんかった。

「……馬が、合わへん？」

十一秒めくらいかぼそい声を出したら、ミーヤンはアネゴらしく「そや」とあごをあげた。

「どうにもならへん生まれつきの相性や。どっちがええとか、あかんとかの話ちゃう。なやんだところで時間のムダや。ノウ細胞の浪費や」

「へ。馬が合わへんかったら、なやんでもムダなんか？」

「そや。馬が合わへんちゅうのは、そういうこっちゃ。合わんもんは合わん。そうわりきつて終わりにするしかない。そないな相性のあいてが、だれにでもおるねん」

「おるんか？」

「おる、おる。うちにもおるで」

「ミーヤンにも？」

「それが人生や」

「はあ……」

ほんま、ミーヤンときたら、えらいきつぱり絶望的な宣言をしてくれたもんや。

そやけどな、「どっちがええとか、あかんとかの話ちゃう」言うてもろたことで、なんとなく、Cうち、ホッとしたのもほんまやねん。

親や先生に話したら、「人をきらったらあかん」とか、「ええとこ探したれ」とか、言われるやん。けど、ええとこ見つからへんから、うちはこまっとるねん。

もともと馬が合わへんのんなら、たしかに、しやあない思えるわ。

うちも真紀ちゃんも悪なくて、あかんのは馬や。

うちと真紀ちゃんは馬が合わへん。

うちと真紀ちゃんは馬が合わへん。

うちと真紀ちゃんは馬が合わへん。

ふしぎやねん。D頭のなかでなんどもくりかえしとるうちに、なんや、うち、みるみる元気になってきた。

うちと真紀ちゃんのあいだにあった、うまく言葉にならんぎくしゃくした感じ。いつも空いとるびみような距離。目と目のパチパチ。わけ

がわからへんかったそれに「馬が合わへん」ちゅう名前をもろて、なんや、すうっとむねが軽なった。

「ミーヤン、おおきに！うち、らくになったわ」

別れぎわ、ミーヤンに②カンシヤのハグをしたつたら、

「水穂はえらいたんじゅんやなあ」

って笑われた。

真紀ちゃんのことはいまもにがてやで。

あの声も、あの顔も、あのコロンのにおいも。

そやけど、あれ以来、真紀ちゃんにむかついたり、むかつかれたりして、頭のどこかにどくどく「にがて汁」が流れこんできたときには、馬が合わへん、馬が合わへんって、心のなかで呪文みたいとなえることにしとる。そしたら、ちよつとは汁がうすまる。

そや、似とる言葉も見つけたで。

「虫がすかん」

これも、なんやようわからへんけど馬が合わへんあいてをさす言葉やろ。

あと、あかん相性の者どうしを「水とA」って言ったりもする。

こんだけいろんな言葉ができたのは、やつぱり遠いむかしから、どこにでも、だれにでも、にがてなあいてがおったせいちゃうやろか。そのあいてへの腹立ちを、むかしの日本人は、うまいこと馬や虫にすりかえようとしたのかもしれない。人類の③エイチやな。

Eそやからな、タロ。

そや、あんたの話や。

知っとるで。あんた、浅木さんとのクリストファーがにがてやろ。散歩で会ったび、ガーッて歯をむきだして、えらいけんまくでおこつとるもんな。

たしかに、柴犬のあんたと、アフガンハウンドのクリストファーは、おなじ犬とは思えん。いもようかとIくらいかけはなれとる。

そやかて、おこつてもムダや。体力の消費や。

カッときたときは、ぐつとのみこんで、そつと心で(注2)つぶやいとき。「しやあない、ちらは『犬猿の仲』なんや」って。

(森絵都「あの子がにがて」『あしたのことば』)

注 1 料理を食べているとちゅうで、調味料などで味を変えること。

2 「つぶやいておきなさい」の意。

問一 線部①～③のカタカナを漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

問二 Aにあてはまる漢字一字を答えなさい。

問三 Iにはどのような言葉があてはまると思いますか。想像して答えなさい。

問四 線部A、Bとありますが、なぜこのようになったのでしょうか。このときの水穂の気持ちを、これまでの真紀ちゃんとの関係をふまえて、説明しなさい。

問五 線部Cとありますが、なぜ「ホッとした」のでしょうか。わかりやすく説明しなさい。

問六 線部Dからは、水穂のどのような気持ちの変化がわかりますか。読点の打ち方に注目して説明しなさい。

問七 線部Eとありますが、なぜタロに言い聞かせているのだと思いますか。考えて答えなさい。

